

講義形式	アクティブラーニング & グループワーク	教室	ほしぞら公民館
------	----------------------	----	---------

講義名	英語で学ぶマクロ環境分析		登録者	社会人	
講義言語	英語	開講所属	国際地域創造学部	期間	前学期
定員	20名	曜日時限	土曜日・13時～16時10分	初回授業	4/14
単位数	2単位	担当教員	牛窪潔		

### ■授業内容と方法

本授業は中小企業を取り巻くマクロ環境分析として、日本とアメリカと東アジアに焦点をあて、1980年代から今日に至る歴史の変遷過程を概観する。各年代のテーマは以下の通りである。①80年代は日本と米国と東アジアの貿易不均衡の構図。②90年代は実体経済とマネー経済のインバランス。③2000年代はグローバル資本主義経済の功罪について。最後に今後の展望と課題として、④21世紀型の新しい経済パラダイムの構築に向けて。授業方法は、レジュメに記載されているその日の単元の内容を、日本語(20分)と英語(60分)で解説すると共に、教員と学生との双方向的な対話(Q&A方式)を取り入れ、学生の英語による対話能力の向上をはかる。さらに、グループワークによるディスカッションも取り入れていく。

### ■達成目標

1. 毎回最低2時間の予習・復習を継続的に行い、自主的かつ意欲的に授業に参加するように目標管理を実施することができる。【自律性】
2. チームメイトに迷惑を及ぼす欠席・遅刻をせず皆出席する。やむを得ず欠席・遅刻する場合は担当教員に必ず連絡する。【協調性】
3. グローバルなマネジメントのフレームワークで、経済現象を把握・理解することができる。【地域・国際性】
4. 課題やテーマに対する自身の意見を英語で発信し、かつ他人の意見を素直に傾聴することができる。

[コ]

#### コミュニケーションスキル

5. 課題やテーマを紐解く際に必要な情報を収集・考察・活用することができる。【情報リテラシー】
6. 本講義の4つのテーマ通じて、問題を予測し、原因を究明し、対策を考案することができる。【問題解決力】
7. 国際経済論に基づくマクロ環境分析と経営学に基づくミクロ企業分析に必要なキーワード及びキーフレーズを英語と日本語で理解することができる。【専門性】

## ■評価基準と評価方法（下記数字番号は、達成目標の数字番号と対応しています）

### 1. 予習・復習の継続的学習と目標管理の実施

- ・自らが設定した学習時間(予習・復習)を遵守し継続的な学習をしているか。
- ・教員の質問に対して、自分の意見を自分の言葉で率直に論じているか。

### 2. 授業へ積極的に参加しようとする態度と姿勢

- ・欠席や遅刻をすることによってクラスメートに迷惑をかけていないか。

### 3. レポート

- ・レポートの内容として授業を通じて蓄積してきた価値観が記されているか。

### 4. 授業中の質疑応答への参加度

- ・教員からの質問を真剣に聞き、かつクラスメートの声に真剣に耳を傾け、自分の意見を英語で表現する

努力をしているか。

### 5. レポート

- ・テーマに対する適切な情報や知識を活かし、自身のオリジナリティを論理的に表現しているか。

さらにレポートの末尾に記載されてある情報の出典先に客観的根拠があるかどうか。

### 6. 授業中の質疑応答への参加度

- ・本講義の4つのテーマに対する自身の回答が問題解決技法に準じた内容になっているか。

### 7 クイズ

- ・本授業のテキストに使用されているキーワードとキーフレーズおよびキーパラグラフの英文和訳のクイズ

を4回実施する。80点以上を合格ラインとする。

成績は、出席(4.5割：質疑応答の評価を含む)、クイズ(4.5割)、最終レポート1回(1割)で評価する。

評価基準については、出席点は、出席(3点×15回)、遅刻(2点)、届出欠席(1点)、無断欠席(0点)。

クイズは、キーフレーズ・キーワードの和訳(20問×4回)、英文和訳、その他。最終レポートは、

A:10点、B:8点、C:6点、とし、提出遅れは2点減点とする。授業の1/3を欠席すると単位を与えない。

## ■履修条件

英検2級以上相当の英語力をもっていることが望ましいが、一番求めている条件はやる気と情熱

<b>■授業計画</b>	
第 1 回 (4/14)	オリエンテーション、中小企業経営論の概要と本授業の学習テーマ
第 2 回 (4/14)	貿易不均衡の構図：プラザ合意以降の世界経済の行方
第 3 回 (4/28)	貿易不均衡の構図：レーガノミックスと双子の赤字問題
第 4 回 (4/28)	貿易不均衡の構図：外国為替の仕組みとアジア経済の展望
第 5 回 (5/19)	実体経済とマネー経済の不均衡の仕組みとバブル経済崩壊後の課題
第 6 回 (5/19)	デリバティブの仕組みとアジアへの海外直接投資戦略
第 7 回 (6/ 2)	クリントノミックスとアジア通貨危機との関係
第 8 回 (6/ 2)	グローバル資本主義経済の功罪：その実情とアメリカとの関係
第 9 回 (6/ 9)	ケース・スタディ：アメリカ初世界自動車危機、リーマンブラザーズ破綻の原因
第 10 回 (6/ 9)	日本の自動車業界：世界金融危機の影響と問題
第 11 回 (6/30)	世界金融危機の発生原因：自律と他律との不均衡
第 12 回 (6/30)	21 世紀型の新しい経済パラダイムの構築に向けて：課題と展望
第 13 回 (7/21)	21 世紀型の新しい経済パラダイムの構築に向けて：沖縄の可能性
第 14 回 (7/21)	結論(原点への回帰)：ケース・スタディ
<b>■事前・事後学習</b>	
講義用レジュメ等の資料は、当該授業の前週に配布します。 <u>必ず予習(2時間)してください。</u> レジュメの中に下線が引かれてあるキーワードとキーフレーズは暗記しましょう。英語が得意な学生はテキストの精読を行ってください。レジュメに記載されてある英文を和訳できるように、復習(1時間)を必ずしてください。英語力は継続的な学習なしに習得できません。	
<b>■教科書</b>	
自作のテキスト。毎回レジュメを配布しそれに基づき授業を進めていく。	
<b>■参考書</b>	
日本経済新聞、日本経済新聞英語版、会社四季報、日経会社情報、日経業界地図、	
<b>■備考(メッセージ)</b>	
自分の夢ある将来を信じ、一つひとつの精神で前に進みましょう	
<b>■オフィスアワー</b>	
土曜日の授業後	
<b>■メールアドレス</b>	
ushikubo@tm.u-ryukyu.ac.jp	
<b>■URL</b>	
<a href="http://www.management.tm.u-ryukyu.ac.jp/">http://www.management.tm.u-ryukyu.ac.jp/</a>	